

研究成果

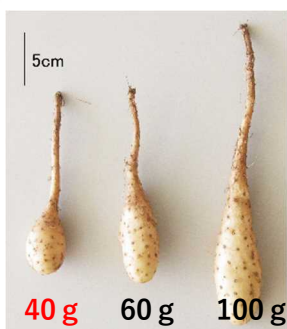
ナガイモの小種子（50g未満）の生育特性、収量及び品質

－県南地域ではウイルスフリー小種子を早植え栽培で利用できます（平成31年度指導参考資料）－ 野菜研究所

近年、生産現場では、気象災害等によって種子が不足する事例が見られました。また、ナガイモの単収向上のためには、ウイルスフリー種子による種子更新率を上げる必要があります。

そこで、今まであまり使われていない**50g未満（40g）の小さい種子**も利用できないかと考えました。植付け時期別に生育特性や収量・品質を調査したところ、**頂芽付きで5月上旬に植えることで、これまで使われている60±10gの種子と同等の収量**となり、利用できることがわかりましたので紹介します。

種子サイズ



40g種子の生育特性（60g種子との比較）

- ◆ 萌芽時期やつらがネットの頂上へ届く時期はやや遅くなります。
- ◆ 生育途中、9月中旬になるといもの生育は追いついてきます。

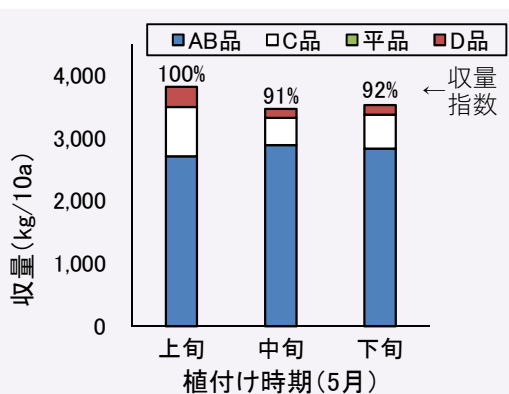
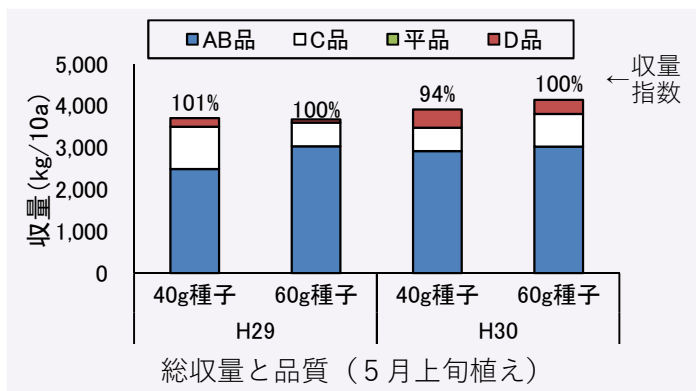
種子重	萌芽揃い	ネット頂上 到達日	9月中旬のいも生育		
			茎葉重 (g/株)	いも長 (cm)	いも重 (g/株)
40g	6月16日	7月17日	537	64	759
60g	6月13日	7月11日	607	66	797

40g種子の収穫時のいもの生育、収量・品質（60g種子との比較）

- ◆ 5月上旬の植付けでは、収穫時のいもの生育はほとんど変わりません。
- ◆ 総収量は94~101%程度と大きな差はありませんが、A B品は同じかやや少ない傾向にあります。
- ◆ ただし、植付け時期が5月中下旬になると収量は10%程度少なくなります。

収穫時のいもの生育（5月上旬植え）
（H29～30平均）

種子重	いも長(cm)	いも重(g/株)	いも径(mm)
40g	55	1,120	64
60g	57	1,132	63



40g種子の植付け時期別収量
（H29～30平均）

技術の活用・注意点

- ◆ ウイルスフリーの種子を頂芽付きで用いた場合のデータです。
- ◆ 栽培方法は、平成21年度指導参考資料「ながいも早植栽培における追肥方法と株間」、病害虫防除は、平成21年度指導参考資料「ながいもの早植栽培におけるアブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生推移」がインターネット上に公開されていますのでこちらも参考にしてください。

お問い合わせ

野菜研究所 栽培部 (TEL 0176-53-7171)

あおもりの未来、
技術でサポート

